資料１－２

TOKYO 2020

大会期間中の交通動向分析

2021年(令和3年)9月29日

東京2020大会の交通対策

交通需要マネジメント（TDM）

①企業説明会の実施

説明会約600回、個別相談約3,800回（WEB含む）を実施し、人の流れや物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ

②2020TDM推進プロジェクトの推進

経済界・業界団体等の多様な主体が一体となり、大会時の交通混雑緩和を目指す取組を推進（約5万社・910団体で構成）

③大会期間中の集中広報

交通混雑の緩和と感染拡大防止に向けた人流抑制など、多様なメディアによる集中的な広報を実施

首都高速道路における料金施策

夜間の料金割引および日中時間帯の料金上乗せを実施

適用期間：7月19日（月）～8月9日（月）
　　　　　8月24日（火）～9月5日（日）

交通システムマネジメント（TSM）

①高速道路の交通対策

本線料金所の通行制限や、交通状況に応じて入口閉鎖、本線車線規制、JCT部での方向別規制を実施

②一般道/競技会場周辺の交通対策

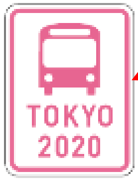
信号調整や駐車対策が一部で実施されたほか、進入禁止エリアや通行規制エリア、う回エリアを設置

③関係者輸送ルート等の設定

大会期間中、選手などの大会関係者が利用する関係者輸送ルートを設定

【関係者輸送ルート】
- 大会ルート
- 練習会場ルート
- 代替ルート

桜色のバスの看板や路面表示を設置



TOKYO 2020

（参考）交通需要マネジメント（TDM）

1．2020TDM推進プロジェクトの推進

都市活動や経済活動の安定との両立を図ることを目的に、東京都、内閣官房、東京2020組織委員会が事務局となり、大会時の交通混雑緩和を目指す（約５万社・910団体で構成）

大会までの主な取組

◆企業向け（中小企業・商店街向け含む）

人の流れ、物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ
説明会約600回、個別相談約3,800回実施（WEB含む）

1）テレワーク、時差出勤などの働きかけ
2）効率的な物流計画の推進
3）工事調整による混雑緩和(対象工事：約2,400件※)

企業の取組状況（例）

・テレワーク導入企業
　2020年3月 24.0% ⇒ 2021年5月 64.8%

・サマーセールの期間変更　例年7月 ⇒ 6月に前倒し

・集約/共同配送、「大会中の配送遅れ」を顧客に案内

◆個人向け

テレワークの実践、計画的な夏季休暇取得、自家用車利用の際の時間・ルート変更、宅配を一回で受取ること等を呼び掛け

（2019年秋～延期前）
TDMポスター 約16万枚、チラシ 約26万枚を配布
駅、区市、業界団体、企業等に掲示・配架

（延期後）
コロナ禍を経た意識変化（アンケート R2.11月）
→ テレワーク継続意向は高い
交通規制チラシ（会場周辺・開閉会式）　約48万部配布

大会期間中の主な取組

国・経済団体等との取組

・スムーズビズ、テレワーク・デイズの設定(7/19～9/5)
・経済界へ人流抑制に向けた働きかけ
・夏季休暇の分散取得、休暇中の移動自粛の呼びかけ
・東京港ゲートオープン時間拡大（コンテナターミナル）
・工事調整による夜間への振替や工事車両の低減

人流抑制の取組（STAY HOMEの呼びかけ）

・テレワークの活用、休暇の取得、オンライン会議
・リモート観戦、Eコマース活用
・マイカー利用の削減、時間帯・ルート変更

物流効率化の取組

・リードタイム延長、翌々日配送
・納品時期変更、時間指定変更（オフピーク）

大会期間中の集中広報

・CM、Web・新聞広告、メルマガ（約5万社、910団体）
・ポスター約27万枚・チラシ23万枚

正確な情報発信

・リアルタイムの混雑状況及び翌日の混雑予報の発信
・カーナビへの規制情報の提供、Webによる道路交通情報

※件数は、東京都都発注工事。このほか、混雑緩和のため国発注工事等についても工事調整を要請

2．大会期間中の集中広報

①CM、ポスター等

CM（TV、ラジオ、新聞）や鉄道駅・車内でのポスター展開、道路でのサイネージや横断幕等により、交通混雑緩和や人流抑制を呼びかけ

テレビCM

放送局：民放キー5局
期間：7/23-8/31

鉄道駅ポスター・中づり・新聞広告

掲出先：鉄道各社
期間：7/19-8/29

日本経済新聞(7/19)
読売新聞（8/20）

高速道路サイネージ・横断幕

首都高から見える屋外広告（12箇所）期間：7/5~7/18
都道・国道歩道橋（50箇所）
期間：7/12-9/5

②デジタル施策

WEBサイトへの記事掲載や、メルマガ（毎日配信）、Youtube、SNS等を活用し、混雑緩和の呼びかけや交通対策の情報提供を実施

ビジネス誌(WEB)

WEB広告（バナー）

YouTube

【期間：7/19-9/5】

③明日の混雑予報

大会期間中は、明日の混雑予報ポータルサイト、ツイッター（約400回）等により、交通状況等を毎日配信

ポータル

ツイッター

【期間：7/14-9/5】

④国や関係機関との連携

国や自治体、関係機関等との連携による呼びかけを実施

テレワークデイズ

JARTIC

自治体

大会期間中における広域の交通量の減少

➢ 交通量：高速道路及び一般道の代表断面合計（全日平均）で約1割減少

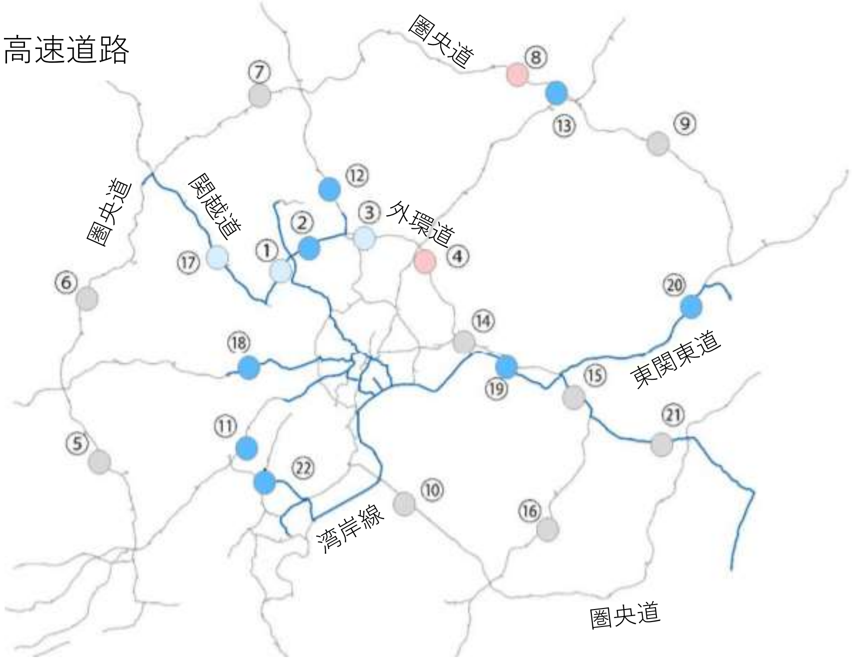
圏央道～外環における代表断面の合計交通量の増減率（交通対策実施期間中と2018年同時期の比較）

	高速道路	一般道
平日平均	-8%	-4%
休日平均	-20%	-10%
全日平均	**-13%**	**-6%**

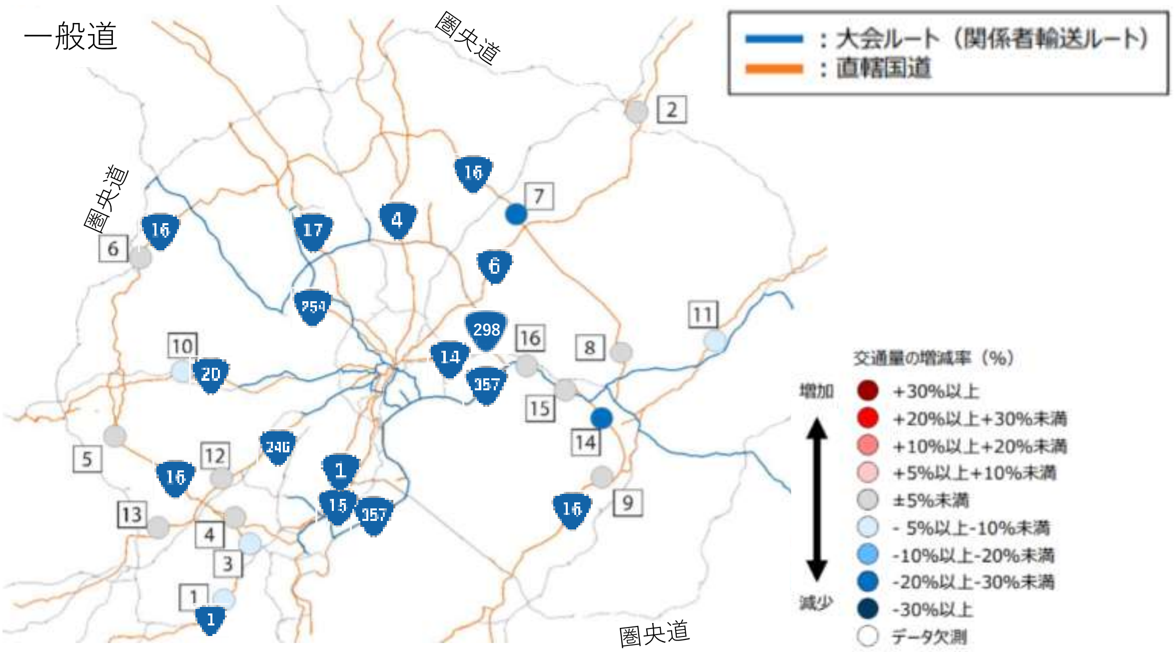
※交通対策実施期間は7/19～8/9、8/24～9/5
※交通量は上下及び24時間の合計
※代表断面：高速トラカン（NEXCO）22箇所（左下図丸数字）、
　直轄トラカン16箇所（右下図四角数字）
※2018年同時期とは、2018年同月同曜日の平均値を用いている
※交通量は、速報値（トラカン等による計測）
※データ欠測が生じた区間の値は合計に含まない
※2018年は現状ネットワークと一部異なる

各断面の増減率（ 2021年7月30日（金）の例）

高速道路



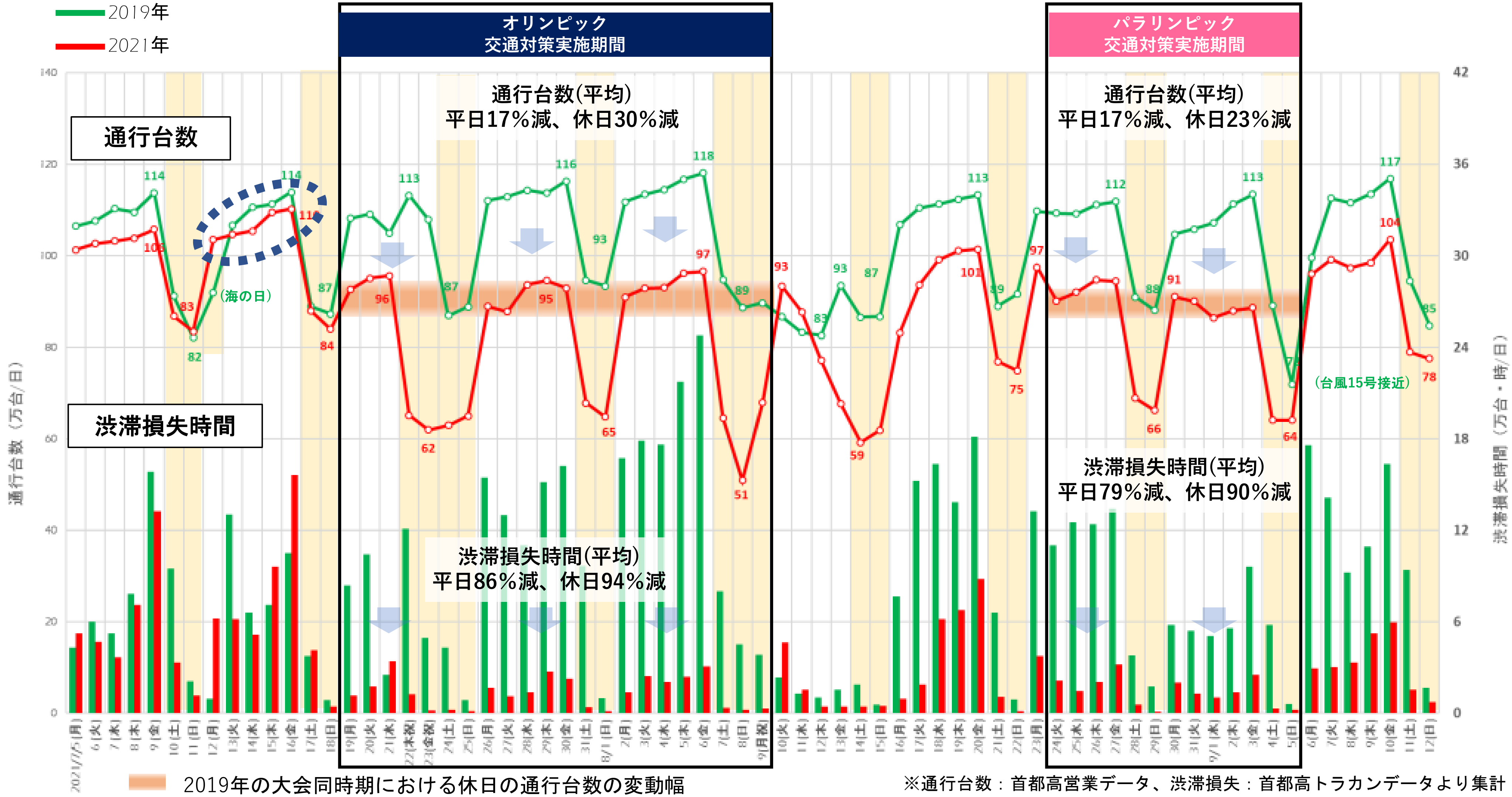
一般道



【出典】　国土交通省HP（https://www.mlit.go.jp/road/2021summer-tr/）

大会期間中における首都高の通行台数と渋滞の減少

- ➢ 通行台数（大会直前）：2019年と比べ同程度で推移
- ➢ 通行台数（期間中）：対2019年比で平日は約2割減少（2019年の休日の通行台数と同程度）
- ➢ 渋滞損失時間（期間中）：平日は約8割減少

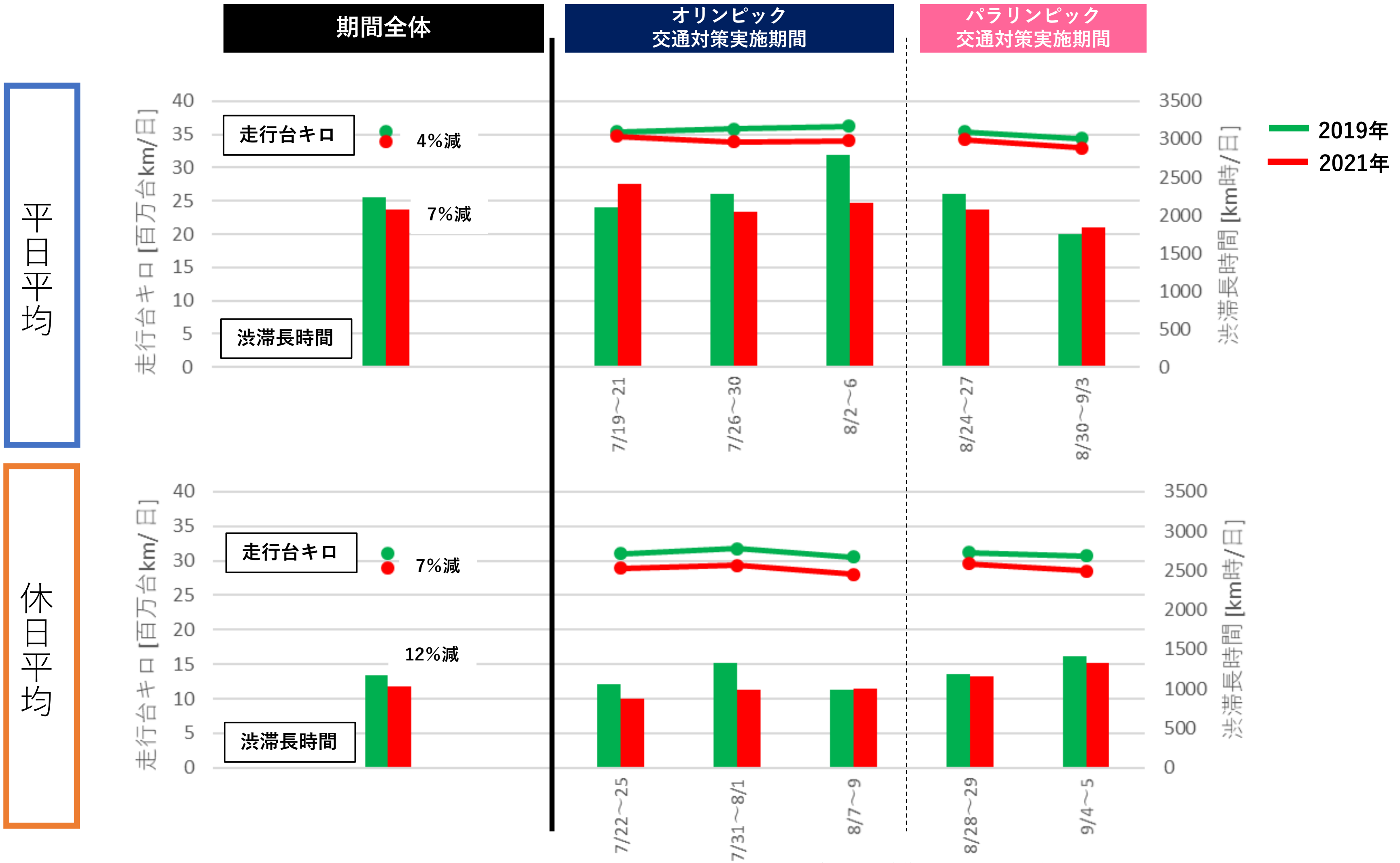


※通行台数：首都高営業データ、渋滞損失：首都高トラカンデータより集計

TOKYO 2020

大会期間中における一般道の交通量と渋滞の減少（東京都全域）

- 走行台キロ（交通量）、渋滞長時間ともに2019年と比較して減少
- 渋滞長時間が2019年を上回る期間も一部でみられた（平日：7/19～21等）

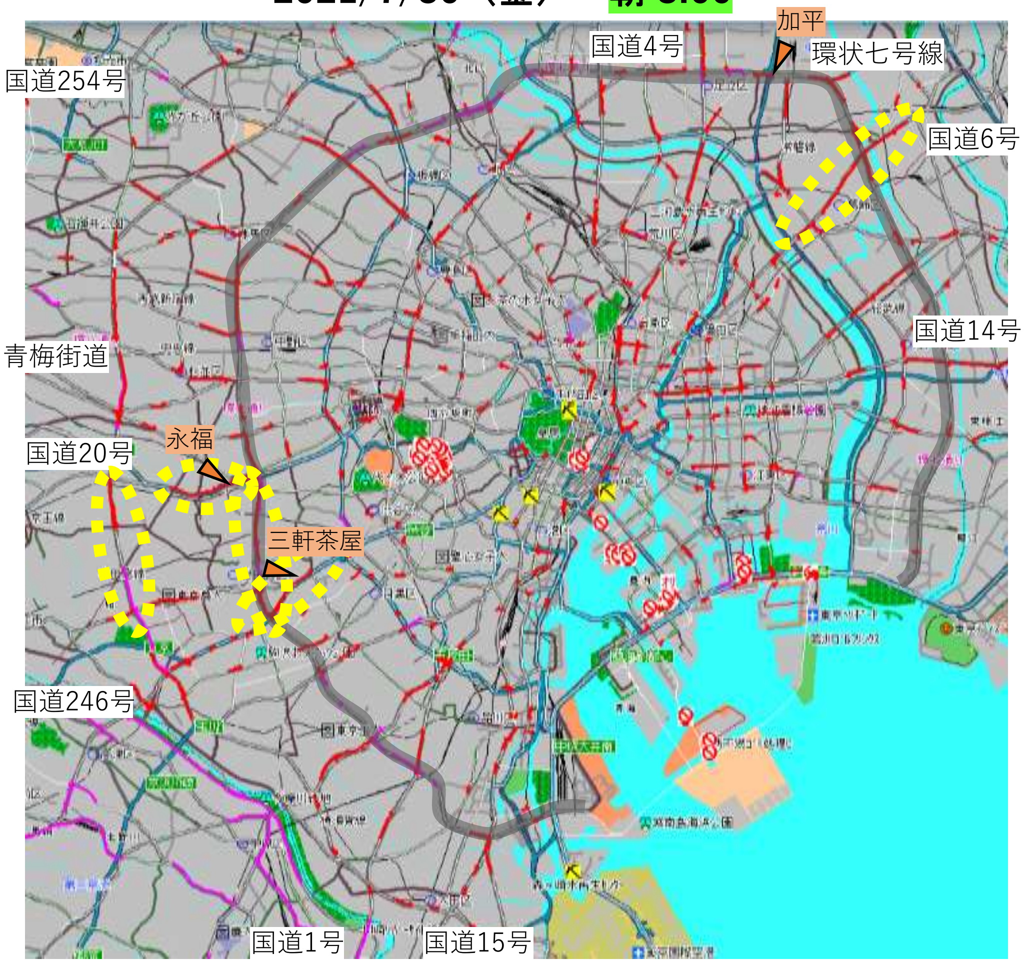


※2019年は同時期同曜日の平均
※警視庁データ（一般道に設置されている車両感知器による計測）より集計

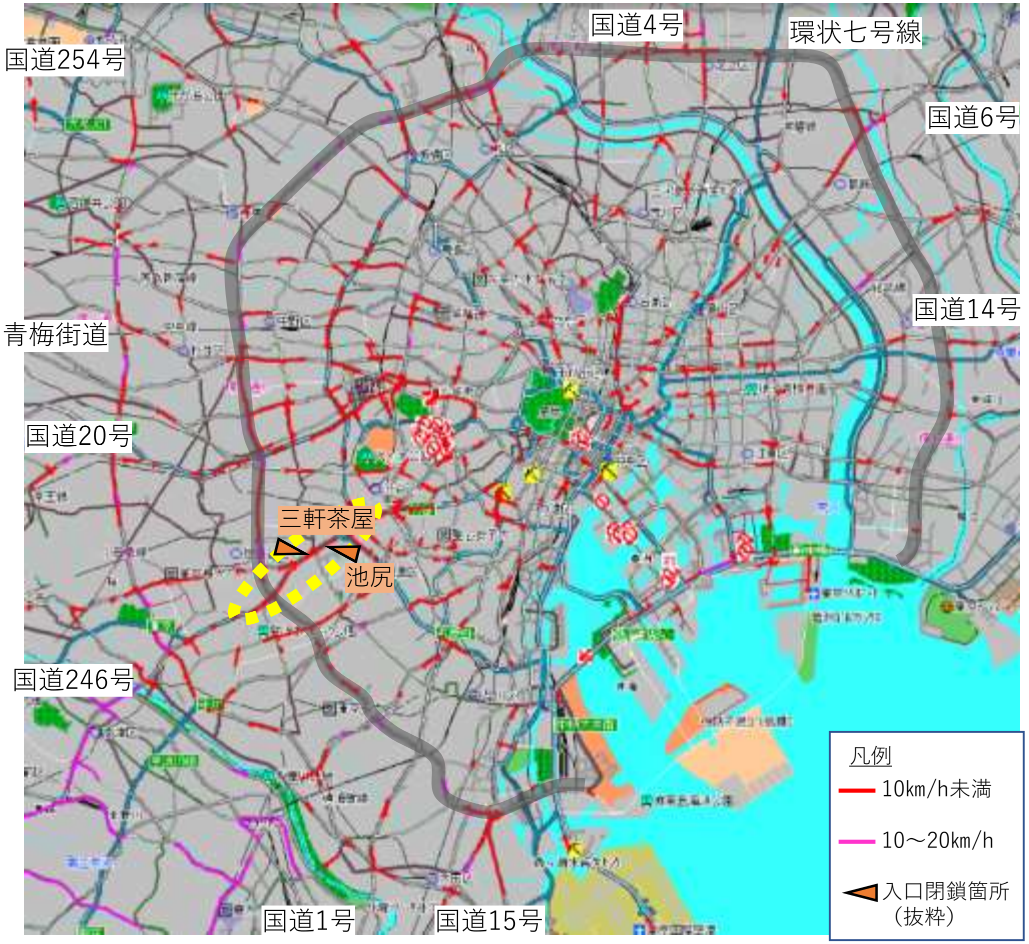
一部の区間において交通渋滞が発生（一般道）

- ➢ 朝夕ピークにおいて、首都高の入口閉鎖付近（国道20号・国道246号等）や、関係者輸送ルートを迂回する道路（環状七号線・環状八号線等）など一部の区間で渋滞が見られた

2021/7/30（金）　朝 8:00

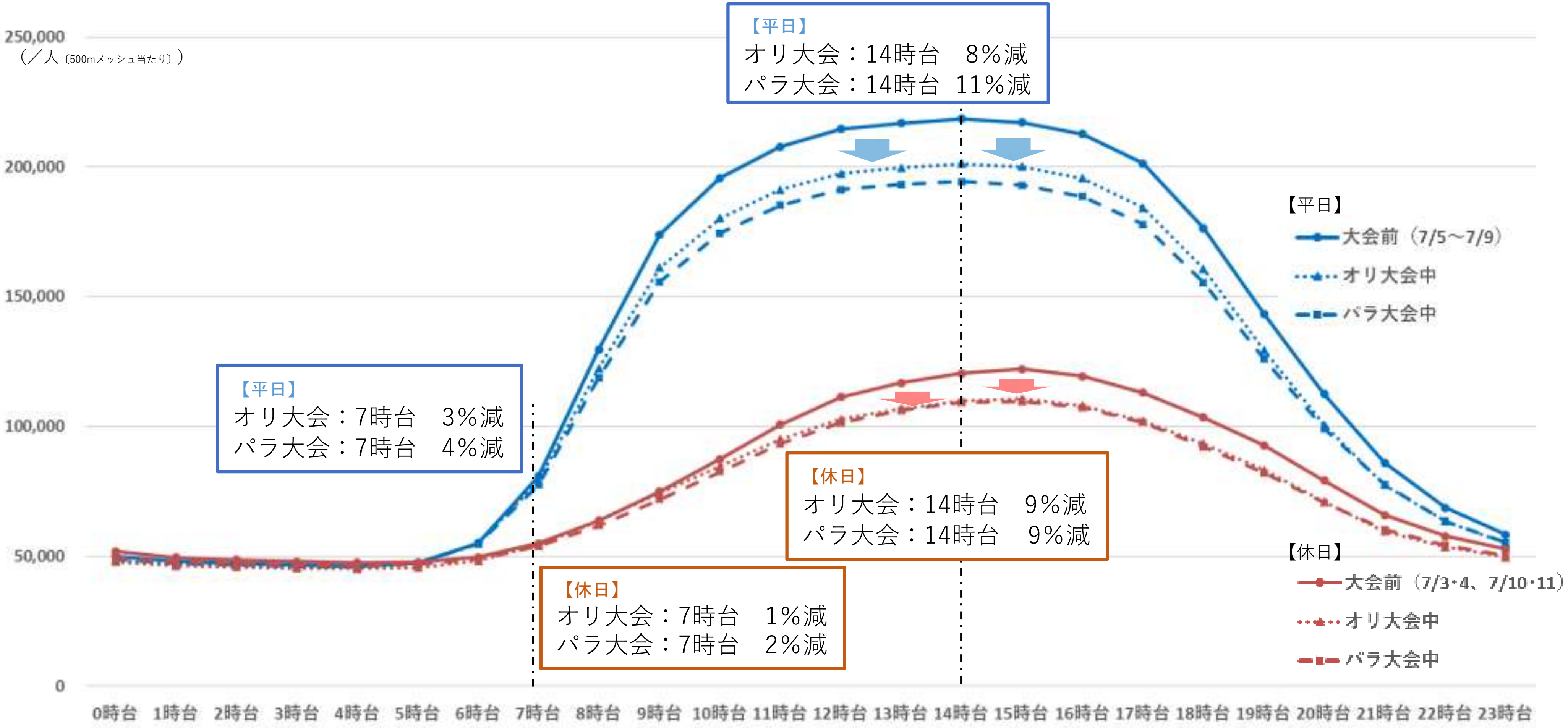


2021/7/30（金）　夕 18:00



※警視庁データ

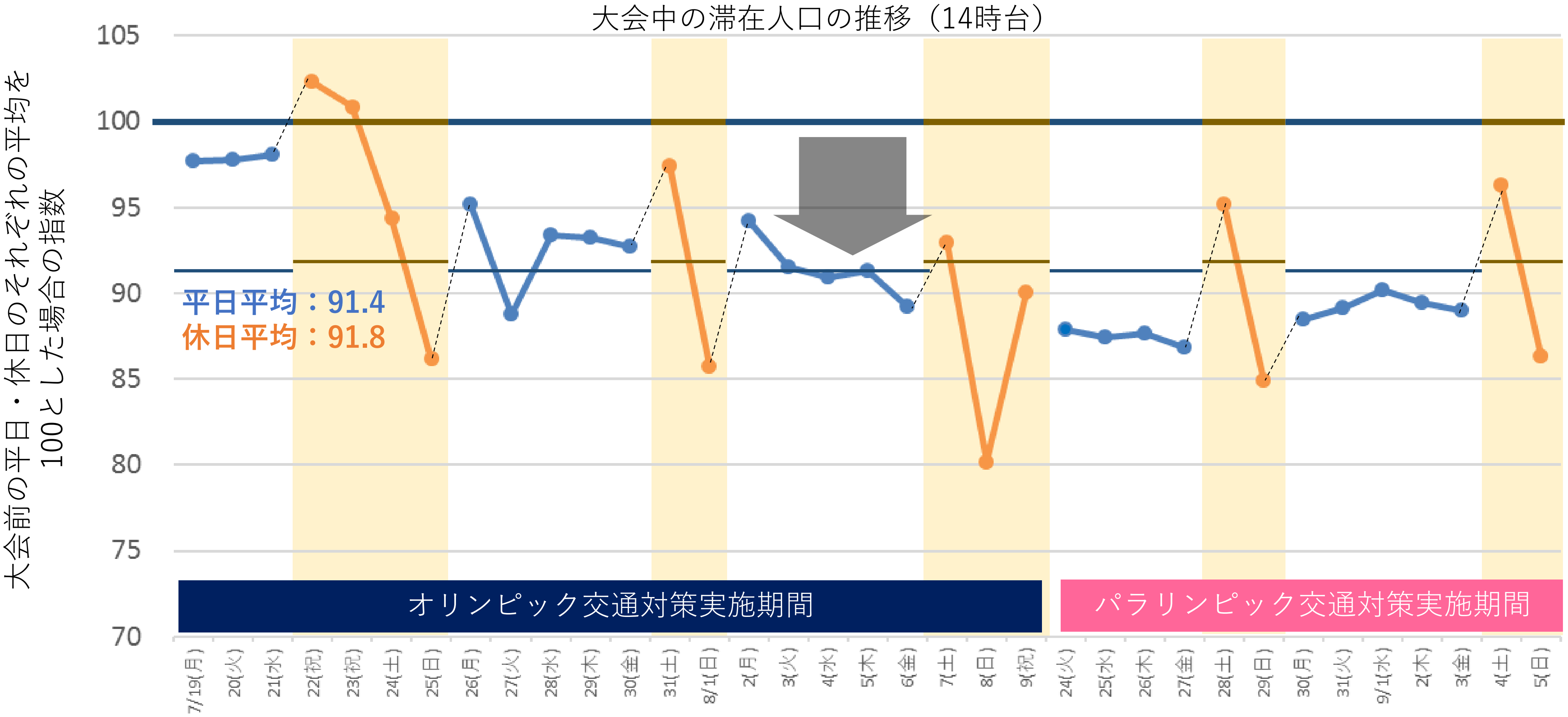
重点取組地区における滞在人口の減少（時間帯別）



㈱ドコモ・インサイトマーケティングの「モバイル空間統計®」データを利用し東京都で作成

※重点取組地区（競技会場等が集中し、道路・鉄道の混雑箇所を通過する交通が多い地区）
①新宿 ②渋谷 ③品川 ④浜松町・田町 ⑤新橋・汐留 ⑥大手町・丸の内・有楽町 ⑦八重洲・日本橋 ⑧神田・秋葉原・御茶ノ水 ⑨九段下・飯田橋 ⑩番町・麹町 ⑪青山・表参道 ⑫赤坂・六本木 ⑬霞ヶ関・虎ノ門 ⑭晴海・有明・台場・豊洲・大井ふ頭 ⑮池袋 ⑯大崎

重点取組地区における滞在人口の減少（大会期間中の推移）

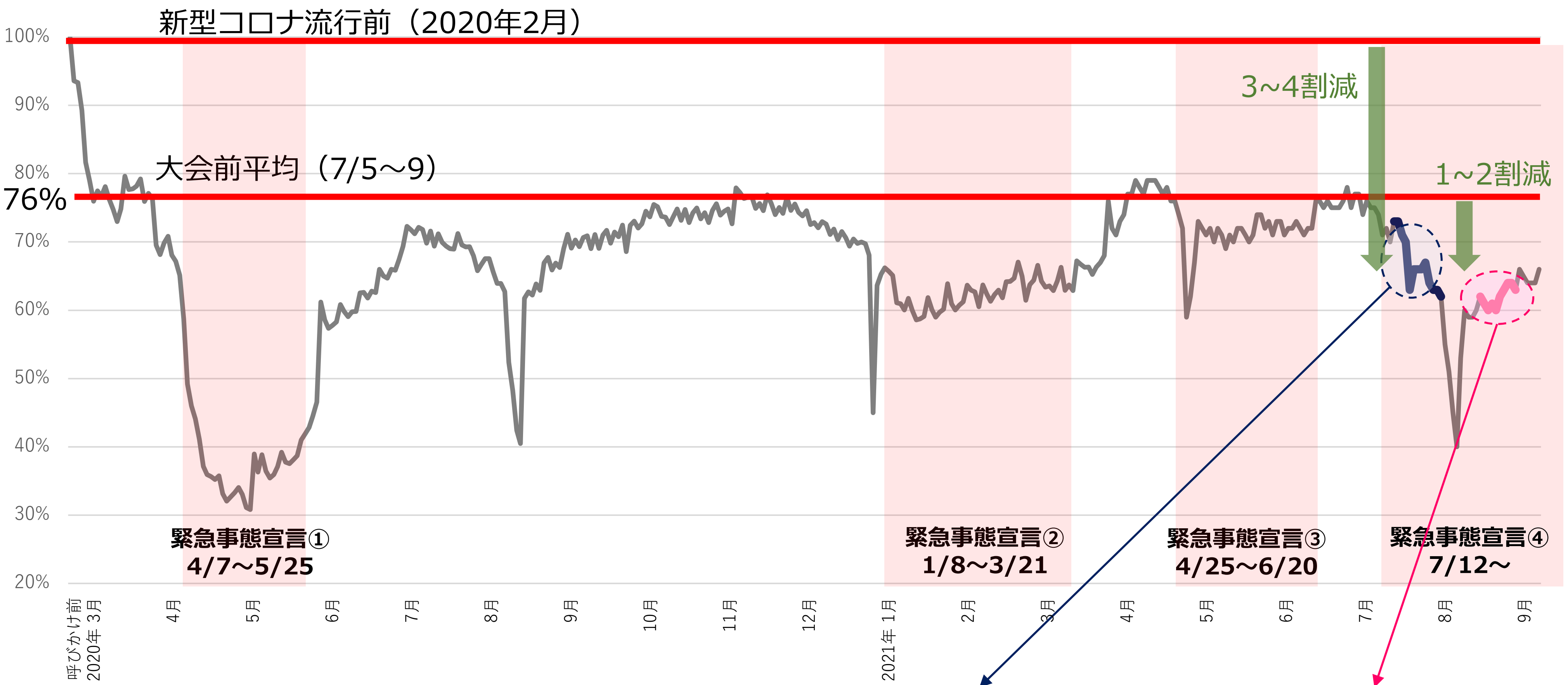


㈱ドコモ・インサイトマーケティングの「モバイル空間統計®」データ（14時台）を利用し東京都で作成

≪指数の算出方法≫
平日の場合は7/5～9の平均値を100、休日（土日祝日）の場合は7/3・4・10・11の平均値を100とした

※重点取組地区
①新宿 ②渋谷 ③品川 ④浜松町・田町 ⑤新橋・汐留 ⑥大手町・丸の内・有楽町 ⑦八重洲・日本橋 ⑧神田・秋葉原・御茶ノ水 ⑨九段下・飯田橋 ⑩番町・麹町 ⑪青山・表参道 ⑫赤坂・六本木 ⑬霞ヶ関・虎ノ門 ⑭晴海・有明・台場・豊洲・大井ふ頭 ⑮池袋 ⑯大崎

（参考）大会期間中における鉄道利用者数（平日ピーク時間帯）の減少



出典：国土交通省鉄道局データより集計
※首都圏の主なターミナル駅における平日ピーク時間帯の自動改札出場者
対象とした駅は
東京・新宿・渋谷・品川・池袋・高田馬場・大手町・北千住・押上・日暮里・町田・横浜

※なお、公共交通マネジメントの「輸送力の確保」については、大会に向けて
『東京2020大会期間中の鉄道運行（臨時列車の運行等）について』を
2021年6月30日に公表したが、無観客となった東京圏等は、とりやめた。

TSMによる関係者輸送ルートの円滑性確保（本線車線規制・入口閉鎖の実施例）

- 機動的に交通対策を実施し、関係者輸送ルートの円滑な交通状況を維持
  朝ピークの例：調布IC手前、外環道(内回り)戸田東IC手前での本線車線規制等
  夕ピークの例：外環道（外回り）の戸田東IC、外環浦和IC、大泉ICの入口閉鎖等
- 一方、本線料金所通行制限やJCT方向別規制、本線車線規制の実施箇所周辺で渋滞が発生

2021/7/30（金） 朝 8:00

2021/7/30（金） 夕 16:00

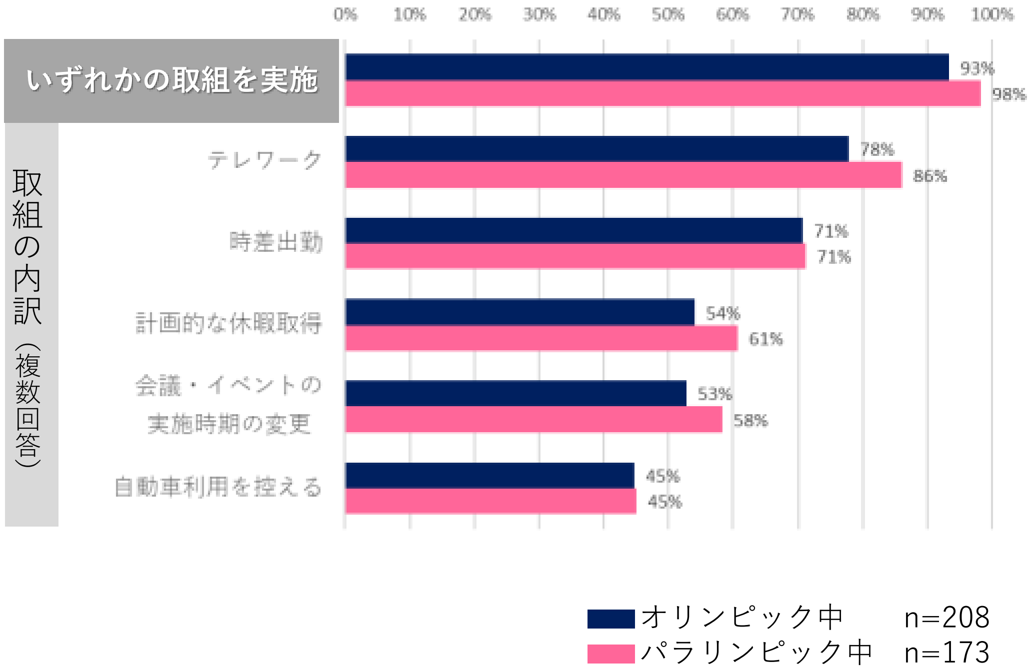
（朝 8:00）
- ：本線料金所通行制限　11箇所/15箇所
- 入口：入口閉鎖　23箇所/77箇所
- ：JCT規制・本線規制　2箇所/17箇所（調布IC手前、戸田東IC手前）

（夕 16:00）
- ：本線料金所通行制限　11箇所/15箇所
- 入口：入口閉鎖　28箇所/77箇所

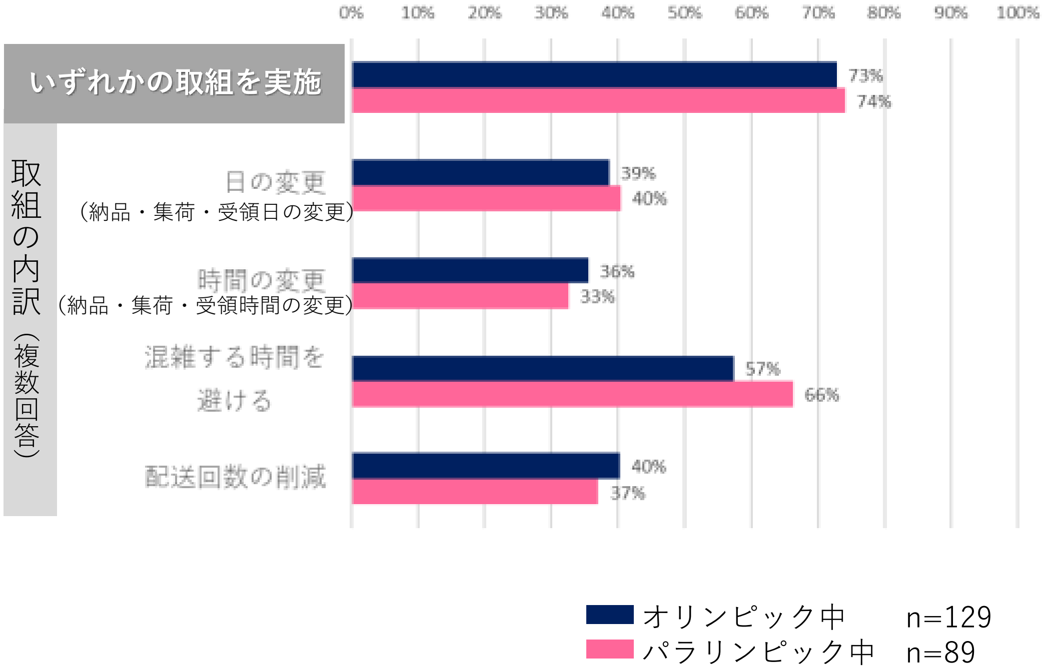
交通量減少に向けた企業の取組（企業アンケート調査 速報）

➢ 大会期間を通じて、交通量減少に向けて何らかの取組を実施したと多くの企業が回答

人の流れに関連した取組



物の流れに関連した取組



＜調査概要＞
◆調査期間：①令和3年8月10日（火）～20日（金）（オリンピック終了後）
②令和3年9月9日（木）～14日（火）（パラリンピック終了後）
◆アンケート対象者：企業（2020TDM推進プロジェクトHPに掲載、登録企業約5万社に対してメルマガで周知）

まとめと今後の取組

(1)まとめ

多くの企業や個人のご協力により交通量が減少したことで、交通マネジメントが適切に機能

◆実施目標を概ね達成

・東京圏の広域（圏央道の内側）において、大会前の交通量の10%減
⇒高速道路及び一般道の代表断面の合計（圏央道～外環）で約1割減少
・首都高速道路において、休日並みの良好な交通状況を目指す
⇒大会期間中の通行台数（平日）は2019年の休日と同程度。渋滞損失時間（平日）は約8割減少

◆交通状況

・東京圏の関係者輸送ルートの円滑な交通状況を維持
・一部の区間で渋滞が発生
本線料金所通行制限やJCT方向別規制、本線車線規制を実施した箇所の周辺
首都高の入口閉鎖周辺の一般道や、関係者輸送ルートを迂回する一般道　など

(2)今後の取組

◆新たな日常の推進

大会を契機に取組まれた新たな商習慣や生活様式について、テレワークやオフピーク通勤、物流の効率化等を推進し、今後更なる定着を図る

◆交通対策の効果検証

TDM及び料金施策、TSMのそれぞれについて、効果、課題等を検証し、とりまとめ、今後の交通施策に役立てる